
彼女の亡霊

トゥカチンチラ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

彼女の亡霊

【Nコード】

N5072U

【作者名】

トウカチンチラ

【あらすじ】

幸せなカップルに、ある日悲劇が訪れる。

「私も好きです。あなたと是非付き合いたいです。」

このメールが携帯に届いたのを見たとき、正志は歓喜した。

かねてから懸想していた正志と同じ大学のゼミ生の女子学生由紀との恋が実ったのである。どうやら相思相愛だったようだ。

正志が告白する前から、何度かお互い話をしたり、学生食堂で昼食と一緒に食べたりした。次第に正志の彼女に対する想いは募り、告白する勇を鼓したのである。

そして正志はそれまで恋人を作ったことはなく、つまり念願の初彼女というわけだ。

その後、世間一般の恋愛よろしく、二人は一緒に街中を歩き回ったり、遊園地に行ったり、映画館に行ったり、比較的高級なレストランに行って夕食をとり、「今日も俺が奢るよ」と強がりたりした。そんな微笑ましい彼らの付き合いは喧嘩別れには至らず長く続き、卒業してお互い就職した後も、恋人同士でいた。正志も、由紀も、お互い一緒にいる時、心から幸福な容子をしているのが見受けられ、傍から見ているものにも、どこかほのかな幸福を感じずにはいられなかった。

このカップルがそのまま結婚に踏み切ったという知らせを受けても決して驚きはしなかっただろう。

だが悲劇が訪れた。

由紀が交通事故にあった。日々の仕事に疲れ、ちょっとした不注意で赤信号のまま横断歩道を渡り、軽トラックに跳ね飛ばされたのである。

そのまま病院に運ばれた。

その悲痛な知らせを受け取った正志は、すぐさま病院へと駆けつけた。

・・・だが遅かった。

正志が由紀のいる部屋に駆けつけた時には、既に由紀は死んでいた。仰向けに伏せて目を閉じていた状態であった。その姿には非情なまでの静けさが感じられた。

彼女の死を知った正志は、絶望の淵に落とされ、次第に声を上げて、人目も憚らず泣き始めた。傍にいた看護婦が口を開いて、何やらお悔みの言葉を述べているが、そんな事など一向に正志の耳に入らぬ。

正志は大声で、咽び泣いた。その姿を見た看護婦は黙り、そばにあった椅子に彼に気付かれないかのように、そつと腰を下ろした。無数の涙粒を頬に滴らせたまま、正志は部屋を出て、すぐそこにある待合椅子に座った。

このまま、自分はこの世に一人ぼっちでいるのだろうか？

由紀のいないこの世界に生きている意味なぞあるのだろうか？

何で由紀が死ぬんだ！何で由紀が死ぬんだ！！何で俺がこんな目に合わなければならんだ！！！！

泣きわめきながらそう心の中で叫び続けた。

どれくらい時間が経ったのだろうか？いつの間にやら、正志は泣声をあげなくなり、疲れたのか、待合椅子の上で横になった。そして自然と、この世の孤独から逃れるかのように目を瞑った。

辺りは闇である。何もない。星の輝きが全くない、漆黒の宇宙だった。

そこで正志は横たわっていて上を向いている。

「ここは？」

「ああ、何も見えない」

「俺は死んだのか……だったら丁度いいや。由紀のいない世界なんて死んでしまうに限る」

「由紀！一体お前はどこにいるんだ？会いたい。由紀に会いたい！！由紀！！由紀！！」

すると突如光が差し込み、正志の眼に見慣れた女が入り、彼女が正志の方に向かって降り立ってくる。

「ああ……ああ……ああ……ああ！！由紀！！！！」

「一体どこにいつてたんだい？寂しかったんだよ」

「俺を置いて、行ってしまうなんて……ひどいじゃないか」

「こつちに来てくれるんだね。」

由紀が正志に無言の微笑みのまま近づき、正志を抱きしめるかのように手を広げ始める。

「俺を……俺を……また抱いてくれるんだね……天使のようだよ……その姿は天使のようだよ！！」

「君が……君さえいてくれたら……ああ、また一緒だよ。ずっと一緒にいよう！！！！」

由紀がついに正志に接し、彼を包み込む形で体全体を抱き締める。正志の目は静かに閉じる。

「こつやつて、こつやつてずっと一緒だ！！！！！！」

泣声が止んだのを受け、看護婦は部屋から外にでた。

夜だったので、辺りが見えなかったので、懐中電灯を取り出して、あたりを照らした。

すると待合椅子に男が横になっているのが見える。顔を覗き込んでみると、それは由紀と同じ非情な静けさをたたえていた。だが、顔には微笑みが零れていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5072u/>

彼女の亡霊

2011年10月9日04時15分発行